

遊び方は無限大！

1 歳児

ぬいぐるみが入っていた箱。
箱の中身をぜ～んぶ出した子ども達。
その箱を横に置きたい子と、
縦に置きたい子といて、お互いに
譲れず…思いが通らずに半べそ。



「どっちも面白そうだよねえ」

自分の思いが出てきました。怪我のない
ように見守りながら、それぞれの思いを受
け止めて、遊びの保障をしてあげたいも
のです。



よしっ！
縦置き♪



横置きにしてテーブル
代わりにしちゃった♪



トンネルみたいに
通り抜けられるよ
よいしょっ！



せんせ～、
一緒に押さえて
あげるね

第2グループ

遊びの中で、自分で選び

自己決定する子どもの姿



ココが、
ポイント!

1歳のこの時期は、別名「**いたずらの時代**」

0歳代に育んだ聞く・見る・触れるといった身体感覚を土台にし、自分が獲得した様々な力を次々に試してみようとしています。

これらの経験が3歳以上児になった時に、自己決定する子どもの姿に繋がっていきます。



ココが、
ポイント!

子ども達は動き、試し、挑戦することで自分の世界を拡大していきます。必要以上に遊びや活動を止めなくても済むような環境を保育士は用意します。

子どものやりたいことを受け止め、認めてあげましょう。

子どもたちは自己が尊重され、受け止めてもらった安心感によって、更に自分の世界を拡大していきます。

子どもの現在だけでなく、未来も考える。

それこそが「**保育の専門性**」です。

保育所保育指針 第2章 保育の内容

2 1歳以上3歳未満児の保育に関わるねらい及び内容

(2)ねらい及び内容

ウ環境

(ア) ねらい

- ① 身近な環境に親しみ、触れ合う中で、様々なものに興味や関心をもつ。
- ② 様々なものに関わる中で、発見を楽しんだり、考えたりしようとする。

(イ) 内容

- ① 安全で活動しやすい環境での探索活動等を通して、見る、聞く、触れる、嗅ぐ、味わうなどの感覚の働きを豊かにする。
- ② 玩具、絵本、遊具などに興味をもち、それらを使った遊びを楽しむ。

森の中のわたしのうち

(1歳児)

おはよう！今日の朝ごはんはなに？

園敷地内の雑木林にあるアカマツの木の根元は、子どもたちのお気に入りの場所であることに保育士が気付きました。

いちご ごはん♪

葉っぱの音がいいのかな？
鳥の声が心地いいのかな？それとも、
土の匂い？木の冷たさ？
私（保育士）も一緒に座ってみようかな・・・

ただいま

どんぐりや落ち葉を見つけても、やっぱり帰るところは、アカマツの木の根元なのね。
寄り掛かれるって安心するのかな？

なにしているのかな？
私も一緒にやってみよう

楽しそうにアカマツの木の根元に帰っていくその姿を見て、友だちも真似て座ってみます。その時保育士は、子どもたちがやってみるように、近くに居て見守ります。子どもたちは、温かく迎えてくれる保育士の笑顔に心地よさを感じ、安心感から得られた活動が、自信に繋がり、やがて自己決定できる力へと繋がっていきます。

第2グループ

遊びの中で、自分で選び

自己決定する子どもの姿



ココが、
ポイント!

身近な環境と関わり、感じ取り、イメージを形成する力が、豊かな表現力や創造性の発達の基礎となります。

大人には、ただの木の根元に見えても、大きな木と枝に囲まれた空間は、子ども達にとっては立派な「おうち」です。色とりどりの落ち葉や種類・大きさの違うどんぐり、さまざまな形の石や枝、そこにある全てが遊びの素材になっています。子どもは、身近にある様々な人や物、自然の事象などから感じ取ったことを基に、遊びのイメージを自分の中につくっていきます。

参考：改定保育所保育指針・解説を読む 全国保育士会編 全国社会福祉協議会（2018年）
152頁 第2章 保育の内容 2. 1歳以上3歳未満児の保育に関わるねらいおよび内容
オ 感性と表現に関する領域「表現」



ココが、
ポイント!

子どもの表現に寄り添い、共感していくことで、感性の育ちにつながります。

豊かな自然の中で感性が働き、そこにある木の根元が「おうち」に結びつき、落ち葉やどんぐりをごはんに見立てて「おうちごっこ」へと遊びが広がっていきました。子どもの自己表現は、素朴な形で行われることが多いです。家に見立てる囲いや、料理を盛り付けるお皿など環境を整えることも考えられますが、まずは子どものありのままの表現やイメージを受け止め共感していくことが大切です。感性を働かせる中で、感じたことや考えたことを自分で安心して表したり、表現する過程を楽しんだりして、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになります。

①参考：改定保育所保育指針・解説を読む 全国保育士会編 全国社会福祉協議会（2018年）
214頁 第2章 保育の内容 3. 3歳以上児の保育に関わるねらいおよび内容
オ 感性と表現に関する領域「表現」
23頁 第1章 総則 2. 養護に関する基本的事項（2）養護に関わるねらいおよび内容
イ 情緒の安定

②引用：改定保育所保育指針・解説を読む 全国保育士会編 全国社会福祉協議会（2018年）
28頁 第1章 4. （2）幼児期の終わりまでに育ってほしい姿 コ 豊かな感性と表現

やっぱり はらぺこあおむし だったね！

2歳児



場面説明

『はらぺこあおむし』の絵本が大好きであおむしに興味を持った2歳児さん。

本物のあおむしを目にしたら子ども達は何を感じ、どんな表現や関わりをするのだろうか。生命の尊さを知るきっかけとなしてほしいと願い保育士は飼育ケースに入れた本物のあおむしを置いてみました。

あおむしと似ているけれどちょっとちがうかな？と絵本と本物のあおむしを毎日じーっと見ていたら、色や形が変わりさなぎから成虫になりました。

みんなでじっくり眺めて「やっぱりはらぺこあおむしだったね！」と大喜び。

ちょうちょがパタパタとぶのを見ていたら、ちょうちょに変身する子が出てきました。

このむしなんだろう？

あれ？うごかないよ！
おなかへってるのかな

パタパタしてる！
ちょうちょになってる！

身を乗り出して不思議そうに飼育ケースをのぞき込む子ども達。保育士はあえて何も伝えずに、子どもが本物のあおむしを目の当たりにして興味を持ち観察する様子を見守りました。感情、表情、言葉が次々としてきて実体験の大切さを感じました。

昆虫図鑑を置いてみると、すぐにページをめくり「おなじ!」と蝶々が載っているのを見つけたAくん。みんなで一緒に「おなじ!おなじ!」と大喜び。

保育士も子ども達の輪に入り一緒に図鑑を見てみると、動かなくなってしまった幼虫が蛹になりカラを破ってキアゲハの蝶々になって生きていたことを知り「はらぺこあおむしとおなじ!」と喜びと発見とうれしいきもちでクラス中がいっぱいになった瞬間でした。



パタパタ～
ピョンピョン



ちょうちょ
でてきてうれしいね！

蝶々がパタパタする姿を見て、子ども達は自分も蝶々になってみたいとなりました。保育士が、机や椅子を避けて広いスペースを作ると、「パタパタ～ピョンピョン」蝶々になりきって手足を動かし自分の表現をして遊ぶうちに近くの友だちと一緒に動きや言葉で蝶々の世界を楽しみました。

たくさん動いてひと休み。飼育ケースを見ると、蝶々の動きが止まっていて、「おなかがへっているのかな。」「おうちにかえりたくなかったんじゃない?」自分と蝶々を「おなじ!」と思って蝶々の気持ちを想像する言葉が出てきたようです。

保育士は、「蝶々さんどうしたいのかな?」と子どもたちに問いかけると「かえりたいかも」「おそとであそびたいんじゃない。」子どもの思いを尊重しながら相談をして、飼育ケースから放すことになりました。蝶々を放した後も、子ども達の中に蝶々への親しみが続き様々な表現遊びへと繋がっていきました。

第2グループ

遊びの中で、自分で選び

自己決定する子どもの姿



ココが、
ポイント!

**子ども一人一人の姿をよく観て、
すべて認めて受けとめることが大切。**

「ちょっとやめて!」「〇〇したらだめでしょ!」こんな関わりを
してしまうと、子どもが自ら動きだし、自分とは違う多様な存在に
心を寄せ向き合って学ぶ機会をなくしてしまいます。

「なにをみているのかな。」「何を考えているのかな。」と様子を
観て、大人の先入観をうえつけず、子どもの好奇心を見守り、子ど
もといっしょに保育者自身が楽しみ、それを子どもと共有しあうこ
とで遊びが楽しくなっていきます。

参考：改定 保育所保育指針・解説を読む 全国保育士会編 全国社会福祉協議会
第2章 保育の内容 2. 1歳以上3歳未満児の保育に関するねらい及び内容
ア健康 (ウ)内容① 131頁 ウ環境 (ウ)内容の取扱い② 145頁



ココが、
ポイント!

**安心できる保育士等の存在が感じられる人
的環境、落ち着いて遊び込める空間、子どもが
様々な感覚を働かせ心を動かされるような体
験ができる物的環境を整えることが大切。**

生活や遊びの中での出来事を通して、興味のあることや経験した
ことを自分なりに現実の世界で再現・表現し、身近な人と一緒に楽
しんだり伝えあったりし共感的に関わることで喜びや自信に満ちて
いき、更に好奇心や感性を豊かにしていきます。

参考：改定 保育所保育指針・解説を読む 全国保育士会編 全国社会福祉協議会
第2章 保育の内容 2. 1歳以上3歳未満児の保育に関するねらい及び内容
オ表現 (ウ)内容の取扱い④ 158頁

子どもは、思わぬものを遊び
の中に取り込み、表現の素材
とすることがある。
このような自分なりの素材の
使い方を見つける体験が創造
的な活動の源泉である。

出典：保育所保育指針解説フレーベル館2018年273頁
第2章 保育の内容3.3歳以上児の保育に関するねらい及び
内容 オ表現 (ウ)内容 ⑤

砂場でケーキを作っていた二人。
園庭にある木を見つめ、ケーキと一緒にクリスマスツリーを
作り始めたことに保育士は気付きました。

クリスマスしよう！

3歳児



子どもは、家庭や保育所の
生活の中で、体験を通して、
心の中に様々なイメージを描
いている。そして、身近な環境
から刺激を受け、その心の内
にあるイメージを様々な表現
している。

出典：保育所保育指針解説フレーベル館2018年276頁
第2章 保育の内容3.3歳以上児の保育に関するねらい
及び内容 オ表現 (ウ)内容 ⑤



第2グループ

遊びの中で、自分で選び

自己決定する子どもの姿



ココが、
ポイント！

自分たちで**発見**し、**想像**を膨らませ、イメージに近づけようとする姿がそこにあります。

～思わぬものを遊びの中に取り込んだ
子ども達～

「シャベルはどう使うのかな?」「危ないから止めよう。」といった言葉を言う前に…

『何をしようとしているのかな?』

大人が子どもの気持ちになって考えることはとても重要。

いつも目にしている園庭の木を、思ったように行動したくなる、見たように再現したくなる、それがクリスマスツリーだった!

『素敵な木になったね!!』

子ども達と一緒にその成果を感動し、共感できる大人でありたい。

保育士等が、**子どもの視点に立ち**、その子どもがそれらに託しているイメージを受け止めることが大切である。

出典：保育所保育指針解説 フレーベル館2018年 275頁
第2章保育の内容 3.3歳以上児の保育のねらい及び内容 オ表現(イ)内容⑦

満足するまでやってみよう！ 5歳児

家族が畑仕事をしている姿を日常的に見ているAくん。

4月になり保育園で「畑で何を育てたい？」と子ども達と会議をすると、会議の後におもむろに絵を描き始めました。「畑には鳥よけが必要だ」と思い出し、Aくんの鳥よけ作りが始まりました。

Aくんに聞いて
Aくんと一緒に
用意してみよう。

畑には鷹が
あった方が
いいよ！

準備するもの
はあるかな？

黒い袋が
ほしいなー
あとは自分で
探してこよう

鳥よけの鷹の設計図

頭の中でのイメージ
がしっかりあるんだ。
どうやって作ってい
くか楽しみだな。

頭がもう少し大きい方が
鷹に見えるだろうな。
いや、でも夢中になって
作っているから、
そのまま見守ってみよう。

意欲

気づき
工夫

Aくんがイメージした
通りに作れたみたいだ。
近くで寄り添いながら、
見守っていてよかった！

先生、見て！
飛んでる
でしょ！

本物みたいにな
ったね！

満足感
達成感

Aくんが満足いくまで作れて達成
感も味わえただろうな。
Aくんのやりたい（主体）を尊重
できてよかった！！

自己肯定感
自己有能感

第2グループ

遊びの中で、自分で選び

自己決定する子どもの姿



ココが、
ポイント!

畑には鷹が
あった方がいいよ!

①子どもの表現は、遊びや生活の
様々な場面で表出されているもの
であることから、それらを積極的
に受け止め、様々な表現の仕方や
感性を豊かにする経験となるよう
にすること。

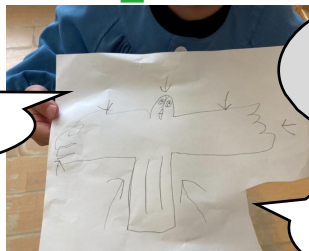


②子どもが試行錯誤しながら様々
な表現を楽しむことや、自分の力
でやり遂げる充実感などに気付く
よう、温かく見守るとともに、適
切に援助を行うようにすること。

③様々な感情の表現等を通じて、子どもが自分の
感情や気持ちに気付くようになる時期であること
に鑑み、受容的な関わりの中で自信をもって表現
をすることや、諦めずに続けた後の達成感等を感じ
られるような経験が蓄積されるようにすること。

青枠内

参考：改訂 保育所保育指針・解説を読む 全国保育士会編 全国社会福祉協議会
第2章保育内容 3. 3歳以上児の保育に関する内容及びねらい 才表現(ウ)内容の取扱い



鳥よけの鷹の設計図

Aくんに聞いて
A君と一緒に
用意してみよう

黒い袋が
ほしいかな

④身近な自然や身の回りの事物に関わる中
で、発見や心が動く経験が得られるよう、
諸感覚を働かせることを楽しむ遊びや素材
を用意するなど保育の環境を整えること。



先生、見て！
飛んでるでしょ！



ココが、
ポイント!

①「鷹の頭ってもっとでかくない？」など声をかけた
くなる気持ちをグッとこらえて、子どもの感性を重
視して、必要以上に声をかけないようにする保育士
の姿勢

②納得いくまで作り込める、素材と時間の確保

環境（人・物・時間）が整うと、子どもの好奇心・探
求心・創造性が引き出されるのではないのでしょうか。

「だったらプール、作っちゃおうよ！」 5歳児

他園との年長プール交流が、雨で中止になってしまい、とても残念がっていた子どもたち。

あるひとりの子が、段ボールの枠を見ると「いいこと考えた!」とつぶやき、以前、遊んでいたボールプールを作りたいことを思いつきました。段ボール枠を広げ出すと周りの友達も集まってきてボールプールができました。遊んでいるうちに、段ボール枠のプールだけでは、せまいということになり、積み木を使って大きいプールも作り始めました。ボールプール、新聞プール色々なプールが出来上がると「プール屋さんにしらない?」というアイデアも生まれ、看板作りも始まりました。小さい子にも声をかけ、みんなで楽しむ活動に広がりました。

保育士
プール、中止になっ
て残念だったね・・・



いいこと考えた!
だったら、ここに
プールつくろうよ!

保育士
積み木の枠はどう?

このプールだけ
じゃ小さいね・・・

積み木も
いいね!



ボールが
足りないな・・・

保育士
新聞紙もあるよ

新聞紙、いいね!
水、いっぱい
つくるぞー!

プール屋
さんにし
ない?



いろんなプールっ
て看板にしようか

オープン
しますよ



小さい子
も呼んで
こよ。」

これでやると水も
早く集められるね。



せーの!



第2グループ

遊びの中で、自分で選び 自己決定する子どもの姿



ココが
ポイント!

制作コーナーや遊び道具など、いつでも使える物が子どもの目に入る身近な場所にあったことで、プールを作るきっかけとなり、プール屋さんまで発展する遊びになっていったと思います。

また、保育士も子どもの行動に「いいね。」と共感する姿勢を見せることが、子どものしたい、やりたい、できるんだという意欲につながっていくのではないかと思います。

身近にある物や遊具、用具などを使って試したり、考えたり作ったりしながら探求していく態度を育てることが大切です。

出典：幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説平成 29 年 3 月 31 日告示フレーベル館 2018 年 266
頁第 2 章保育の内容満 3 歳児以上の教育及び保育に関するねらい及び内容 環境（8）



ココが
ポイント!

「ボールが足りない」「せまくなった」となった時に新聞紙や積み木の提案を必要に応じて保育士から出されました。見守りながら、保育士のアドバイスによって子どもがひらめきを広げ、実現する一つとなったのではないのでしょうか。

ときには、他の園児が工夫していることに注目するよう促したり、また、ときには、保育教諭等自らが工夫の仕方を示したりするなど、いろいろな物に興味をもって関わる機会をつくることも必要です。

出典：幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説平成 29 年 3 月 31 日告示フレーベル館 2018 年 267
頁第 2 章保育の内容満 3 歳児以上の教育及び保育に関するねらい及び内容 環境（8）